

地域おこし協力隊ニュース

-はじめまして-



みなさん、初めまして。

7月より「地域おこし協力隊」として五箇地区に
来ました、関 奈央弥と申します。

網野町出身の29歳です。

私は、管理栄養士として東京の小学校で5年間
食育に取り組んできました。

大学卒業後すぐに丹後に帰ってきたかったのですが、試験に落ちてしまい夢叶
わず。。

その後、東京都の栄養士としてご縁をいただき、5年間東京都大田区の小学校
で栄養士として、子どもたちに日々食育を行っておりました。

そこでの経験から、「海、山、川、畑、田がある丹後の『食の豊かさ』」に可
能性を感じ、「丹後で食育を行い、今の日本にある食の問題を解決したい」と
思うようになりました。

ウラへ続く・・・



<得意なこと>

専門分野は、「食」関係の特に「食育」です。

また、小学校の栄養士を辞めた後、2017年4月～2018年6月まで、京都市内にて、「缶詰・瓶詰・レトルトパウチ」などの加工品の商品開発支援を仕事をしておりました。そのため、加工品を作りの知識も少し。

また、2年前から始めた「丹後バル」という丹後の食を発信する活動をする中で、丹後の中の多くの生産者の方々のご縁をいただき、農家さんや漁師さんなどから食に関して多くの事を学ばせていただいております。

<なぜ地域おこし協力隊になったの？>

丹後の出身だったのですが、地域おこし協力隊の募集を見て、初めて「月の輪田」や「比沼麻奈為神社」のことを知りました。

調べてみると、月の輪田が稲作発祥の地であり、比沼麻奈為神社が豊受大神という食べ物の神様が祀られていた場所だと知り、丹後の中でも、食のストーリーに溢れた地域だと思い魅力を感じました。

そこで、今まで自分が培ってきた管理栄養士の「食のスキル」を生かし、地域や丹後全域にとって有益な取組ができるのではないかと考え、募集をしました。

<今後取り組んでいきたいこと>

食にまつわる資源と可能性が盛り沢山なこの地で、食を軸として地域と人を健康にできるような取組を進めていきたいと思っております。

とはいうものの、一人では何もできません。

今後また皆さまと一緒に、楽しいわくわくする取組ができればと思っております。